

# ふるさと自慢

入学、就職、結婚、転勤など、さまざまな事由で、ふるさとを離れ、現在、鶴瀬西地区に居住されている方々に、生まれ育った故郷を振り返り、「ふるさと自慢」を語っていただきました。ちなみに、ある研究所が約30,000人を対象に行った「愛着度」「自慢度」の「都道府県出身者による郷土愛ランキング」では、北海道が1位で京都府が2位、埼玉県は10年連続で最下位だったそうです。投稿いただいた皆様のように誇れるふるさとにしたいものですね。

## おふせ物語

川上 喜久治さん（関沢）

長野県は「信濃」または「信州」とも言い、県民は分水嶺で二分して日本海側を「北信」、太平洋側を「南信」と呼んでいる。長寿県で老人医療費の少ないのは全国でトップクラスだが、南・北では気候も風土もかなり異なる。

わが故郷の「小布施町」は善光寺を含む北信に位置し、近年では観光地への中継点としてにぎわっている。北斎美術館を中核に、酒蔵や和菓子の老舗が軒を連ね、町並みや裏小路の改修・保存も進んでいる。栗かのこ・栗羊羹など栗を素材とした栗菓子やりんご・ぶどう（巨峰）は土産品として名高い。おやき・手打ち蕎麦は懐かしく忘れられないおふくの味覚だ！当町は桜の日本画家中島千波氏

の出身地であり、天才絵師葛飾北斎や俳人小林一茶ともゆかりが深い。北斎は八十歳半ばを過ぎて四回ほど小布施を訪れ滞在している。地元の豪商で陽明学者の高井鴻山は北斎のよき理解者でありスポンサーだった。町内に残る肉筆画は多いが岩松院本堂の天井一杯に描かれた「大鳳凰図」は圧巻である。また、一茶は私の実家近くにある梅松寺の十九世住職と詩歌を通じて長年にわたって親交があり、陣屋での句会に度々立ち寄っている。境内の句碑には「栗拾ひねんねんころり云いながら」他が刻まれている。

私の故郷は鹿児島県の奄美群島の一つで徳之島です。奄美群島は第二次世界大戦後琉球列島と共に米国統治下に入り講和条約締結後もなお、日本とは厳然たる国境線を隔てた外国という非難に陥りました。その前後から熱烈な祖国復帰運動が燃え上がり、私も小学1〜2年生だったと思います。全員日の旗を振って「日本復帰の歌」を合唱しながら村中行進した記憶が今でも鮮明に残っています。二度と戦争のない平和な日本でありますようお願いいたします。

## 長寿と子宝の島

盛 哲男さん（鶴馬）



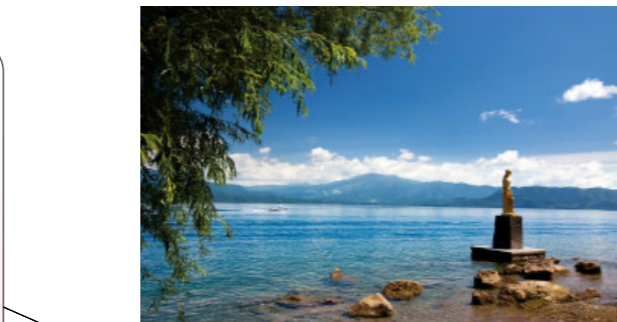
栗の小径

小布施は島崎藤村「千曲川のスケッチ」、森鷗外「みちの記」、林芙美子「枯葉」にも書かれている。



おやき

サトウキビ



田沢湖の「たっこ像」

気候は温暖で子育てにも適していて、子どもの出生率も全国平均を上回っていて、長寿世界一の泉重千代さん（享年120歳男性）・本郷かまとさん（享年116歳女性）の出生地でもあります。島民の娯楽として年に数回おこなわれる闘牛は、約500年の歴史があり全島大会は徳之島3町持ち回りで開催されチャンピオン牛を決定します。牛と勢子（せこ）と観客が一体となって盛り上がります。産業としては亜熱帯気候をいかけたサトウキビの栽培を中心として、バレイショやサトイモ、マンゴーやメロン、タンカン等の果樹園芸が盛んに行われています。



全島一決定の横綱戦

子どものころはサトウキビの堅い皮を歯でむしり、かぶりつく甘い汁が口いっぱいになり美味しかった記憶が懐かしいです。今は黒砂糖をお茶うけにし、夜は黒糖焼酎で一日の疲れをさげます。

## 辰子姫が住む 神秘の田沢湖

高橋 友子さん（上沢）



私のふるすとは、秋田県で大曲と横手の間位置し、最寄り駅は「後三年駅」です。ふるすこの自慢は、美しい田沢湖です。

東北に伝わる「三湖伝説」の中の「辰子姫伝説」が田沢湖に神秘さをかもっているのをご存知ですか。

「めんこい」という方言がありますが、昔辰子というめんこく美しい娘が、永遠の美しさを求め「大蔵観音」に百日百夜の願掛けをしたそうです。

「北に沸く泉の水を飲めば願いが叶う」とのお告げがあり、深い森の奥に沸く清い泉を見つけ、泉の水を飲むと益々喉が渇き、ついには、飲み干してしまい、気が付けば、大きな龍となり、湖底に沈み主となったそうです。

田沢湖がパワースポットと言われているのは、「辰子姫伝説」も寄与しているのかもしれない。

「美しくありたい」「素敵なお人結ばれたい」と思われたら、是非訪れて見ては、いかがでしょうか。

## 大阪人大好き

山田 満紀子さん（鶴瀬西）



私のふるすとは、千里丘陵で行われた大阪万博の吹田市です。

一般的には、太閤城なのかもしれませんが、私が自慢するのは、大阪人です。

優しく、面白くて、図々しくて、温かいそんな人たちが自慢です。

大阪弁で会話する女性も大好きです。

世間では大阪弁はきついいといわれますが、上京した際に、聞いた関東の女性の男性的な会話に驚き、違和感を覚えました。

例えば、関東で「〜しようぜ」を大阪では「〜してみいひん？」と語尾が柔らかくなります。ふるさと毎にお言葉があり、同郷の人との会話は、それだけでホットさせてくれます。

今の楽しみは、大阪人ヨガ講師による大阪人だらけのおしゃべりを楽しむながらのヨガ。私にとって、究極のリラックスタイムになっています。

# OSAKA

